

本資料は、ブリストル・マイヤーズ・スクイブが2023年7月11日に発表したプレスリリースの和文抄訳であり、内容につきましては英語原文が優先されます。本プレスリリースに記載されている医薬品情報(本邦未承認情報を含む)は、ブリストル・マイヤーズ・スクイブに関連する最新情報をステークホルダーの皆様にお知らせするものであり、医薬品のプロモーションや宣伝・広告を目的とするものではありません。

オブジーボとシスプラチンを含む化学療法の併用療法、 第Ⅲ相 CheckMate -901 試験においてシスプラチンを含む化学療法に適格な切除不能または 転移性尿路上皮がん患者に対して全生存期間および無増悪生存期間でベネフィットを示す

CheckMate -901 試験は、この患者集団のファーストライン治療において、
免疫療法薬による併用療法が標準治療であるシスプラチンを含む併用療法と比較して
生存ベネフィットを示した初めてかつ唯一の第Ⅲ相試験です。

(ニュージャージー州プリンストン、2023年7月11日) —ブリストル・マイヤーズ・スクイブ
(NYSE: BMY/本社: 米国ニューヨーク/CEO: ジョバンニ・カフォリオ) は、本日、第Ⅲ相
CheckMate -901 試験のサブ試験の最終解析において、2つの主要評価項目である全生存期間 (OS)
および盲検下独立中央評価委員会 (BICR) の評価による無増悪生存期間 (PFS) の両方を達成した
ことを発表しました。サブ試験の結果では、シスプラチンを含む化学療法に適格な切除不能または
転移性尿路上皮がん患者のファーストライン治療として、オブジーボ (一般名: ニボルマブ) とシ
スプラチンを含む化学療法の併用療法後に続くオブジーボ単剤療法によるレジメンが、標準治療
であるシスプラチンを含む併用療法と比較して、OS および PFS で統計学的に有意なベネフィットを
示しました。尿路上皮がんのファーストライン治療において、オブジーボとシスプラチンを含む化
学療法の併用療法の安全性プロファイルは良好な忍容性を示し、これまでに報告されているものと
一貫していました。新たな安全性の懸念は認められませんでした。

ブリストル・マイヤーズ・スクイブのバイスプレジデント兼泌尿生殖器がん領域グローバル開発プロ
グラム責任者である Dana Walker (M.D., M.S.C.E.) は、次のように述べています。「本日のニュ
ースにより、免疫療法薬による併用療法ががん患者さんの予後に変革をもたらす可能性がまたひと
つ示されました。オブジーボとシスプラチンを含む化学療法の併用療法は、シスプラチンを含む化
学療法に適格な未治療の切除不能または転移性尿路上皮がん患者さんにおいて OS および PFS の両
方を改善した初めての免疫療法薬による併用療法であり、進行腎細胞がんにおける持続的な生存期
間の延長や切除可能な筋層浸潤性尿路上皮がんにおける再発リスクの低減など、さまざまな泌尿生
殖器がんに対してオブジーボによる治療法のベネフィットを裏付けています。私たちは、今回の肯
定的な結果に勇気づけられ、アンメットニーズが高い患者さんに今後も新たな治療法をお届けでき
るよう尽力してまいります。CheckMate -901 試験にご参加いただいた患者さん、治験担当医師そし
てすべての治験施設の皆様にお礼を申し上げます。」

ブリストル・マイヤーズ・スクイブは、今後データの全評価を完了させ、学会で結果を発表すると
ともに、規制当局と協働してまいります。

CheckMate -901 試験の主要試験は、未治療の切除不能または転移性尿路上皮がん患者を対象に、
オブジーボとヤーボイ (一般名: イピリムマブ) の併用療法を標準治療であるシスプラチンまたは
カルボプラチンを含む化学療法と比較評価する試験で、シスプラチンに不適格な患者コホートを対
象に進行中です。オブジーボは、これまでに転移性尿路上皮がんのセカンドライン治療および根治
切除後の高リスク筋層浸潤性尿路上皮がんの術後補助療法など、尿路上皮がんのさまざまな治療段
階において臨床ベネフィットを示しています。

切除可能または転移性尿路上皮がんのほか、オブジーボ単剤療法およびオブジーボによる併用療
法は、これまでに進行腎細胞がん、非小細胞肺癌、悪性胸膜中皮腫、転移性悪性黒色腫、および
食道扁平上皮がんを含む複数のがん腫に対する第Ⅲ相試験で OS の有意な改善を示しています。

CheckMate -901 試験について

CheckMate -901 試験は、未治療の切除不能または転移性尿路上皮がん患者を対象に、オブジーボ
とヤーボイの併用療法 (主要試験) またはオブジーボと化学療法の併用療法 (サブ試験) を標準化
学療法単独と比較評価した無作為化非盲検第Ⅲ相臨床試験です。

CheckMate -901 試験のサブ試験では、シスプラチンを含む化学療法に適格な患者 608 例が、オプジーボ 360 mg と化学療法を 3 週間間隔で投与する群、または化学療法単独の群のいずれかに無作為に割り付けられました。サブ試験の主要評価項目は、全生存期間 (OS) および無増悪生存期間 (PFS) です。

シスプラチンを含む化学療法に適格な患者の OS および PFS の結果は、CheckMate -901 試験のサブ試験における同評価項目の最終有効性解析に基づくものです。

尿路上皮がんについて

膀胱がんは世界で 10 番目に多いがん腫であり、毎年 573,000 人以上が新たに診断されています。膀胱の内側に並ぶ細胞で最も多く発生する尿路上皮がんは、膀胱がんの約 90% を占めています。尿路上皮がんは、膀胱に加えて、尿管および腎盂を含む尿路の他の部分に発生することがあります。尿路上皮がんの大多数は早期に診断されますが、切除術を受けた患者の約 50% が術後 2~3 年以内に進行・再発します。また、尿路上皮がん患者の約 20~25% が転移性疾患を発症します。化学療法単独によるファーストライン治療では奏効の持続性が良好でなく、転移性がんの治療における大きな課題となっています。また、進行尿路上皮がん患者のセカンドライン治療には、限られた治療選択肢しかありません。

ブリストルマイヤーズスクイブ：がん患者さんのためのより良い未来を目指して

ブリストルマイヤーズスクイブは、「サイエンスを通じて、患者さんの人生に違いをもたらす」というビジョンを掲げています。がん研究で私たちが目指すのは、より良い健やかな日々をもたらす医薬品を患者さんにお届けすること、そして、がんの治療を可能にすることです。私たちはこれまでも、さまざまながん腫において生存期間を改善してきました。その実績を足掛かりに、ブリストルマイヤーズスクイブの研究者は、患者さん一人ひとりに合わせた個別化医療の新たな地平を拓くとともに、革新的なデジタルプラットフォームによって得たデータをインサイトに変え、研究の着眼点を明らかにしています。卓越した科学的知見、最先端の技術および創薬プラットフォームにより、私たちは、あらゆる角度からがん治療にアプローチします。がんは、患者さんの人生のさまざまな場面に深刻な影響を及ぼします。ブリストルマイヤーズスクイブは、診断からサバイバースタップまで、がん治療のすべての側面に違いをもたらすべく尽力しています。がん治療のリーダーである私たちは、がんと闘うすべての人々の力となり、より良い未来を築くべく取り組んでいます。

オプジーボについて

オプジーボは、身体の免疫系を利用して抗腫瘍免疫応答を再活性化する PD-1 免疫チェックポイント阻害薬です。がんを攻撃するために身体の免疫系を利用するオプジーボは、複数のがん腫において重要な治療選択肢となっています。

業界をリードするオプジーボのグローバル開発プログラムは、ブリストルマイヤーズスクイブのがん免疫療法における科学的知見に基づいており、さまざまながん腫を対象に、第Ⅲ相試験を含む全段階において広範な臨床試験が実施されています。今日に至るまで、オプジーボの臨床試験プログラムには、35,000 人以上の患者さんが参加しています。オプジーボの臨床試験は、治療におけるバイオマーカーの役割、特に、一連の PD-L1 の発現状況においてオプジーボが患者さんにどのようなベネフィットをもたらすかについて理解を深めることに役立っています。

オプジーボは、2014 年 7 月に承認を取得した世界初の PD-1 免疫チェックポイント阻害薬となり、現在、米国、欧州、日本および中国を含む 65 カ国以上で承認されています。2015 年 10 月、ブリストルマイヤーズスクイブは、オプジーボとヤーボイの併用療法において転移性悪性黒色腫の適応でがん免疫療法薬の併用療法として初めて承認を取得し、現在、米国と欧州を含む 50 カ国以上で承認されています。

オプジーボの適応症および安全性情報について

米国でのオプジーボの適応症および安全性情報については、原文リリースをご参照ください。

ブリストルマイヤーズスクイブと小野薬品工業の提携について

2011 年、ブリストルマイヤーズスクイブは、小野薬品工業と締結した提携契約により、当時、小野薬品工業がすべての権利を保有していた北米以外の地域のうち、日本、韓国、台湾を除く世界各国におけるオプジーボの開発・商業化に関する権利を獲得しました。2014 年 7 月 23 日、ブリス

トルマイヤーズ スクイブと小野薬品工業は、この戦略的提携契約をさらに拡張し、日本、韓国、台湾のがん患者さん向けに複数の免疫療法薬を単剤療法および併用療法として共同開発・商業化することを合意しました。

ブリストルマイヤーズ スクイブについて

ブリストルマイヤーズ スクイブは、深刻な病気を抱える患者さんを助けるための革新的な医薬品を開発し、提供することを使命とするグローバルなバイオファーマ製薬企業です。ブリストルマイヤーズ スクイブに関する詳細については、[BMS.com](https://www.bms.com) をご覧くださいるか、[LinkedIn](#)、[Twitter](#)、[YouTube](#)、[Facebook](#) および [Instagram](#) をご覧ください。

将来予測等に関する記述の注意事項

本プレスリリースは、特に医薬品の研究、開発および商業化について、1995年民間有価証券訴訟改正法の趣旨の範疇に含まれる「将来予測に関する記述」を含んでいます。歴史的事実ではないすべての記述は、将来予測であるか、将来予測であると見なされるものです。そうした将来予測に関する記述は過去の実績ならびに将来の業績、目標、計画および目的に関する現在の予想および予測に基づくものであり、今後数年間で予測が困難あるいは当社の支配下でない遅延、転換または変更を来たす内的または外的要因を含む内在的リスク、仮定および不確実性を伴い、将来の業績、目標、計画および目的が、本文書で記述または示唆されている内容と大きく異なる結果となる可能性があります。これらのリスク、仮定、不確実性およびその他の要因には、特に、本プレスリリースに記載された併用療法の今後の試験結果が良好でない可能性、およびそのような併用療法の本プレスリリースに記載された追加の適応症の開発と商業化が成功するかどうかは不明であるという点が含まれています。将来予測に関するいかなる記述も保証されるものではありません。本プレスリリースの将来予測に関する記述は、ブリストルマイヤーズ スクイブの事業と市場に影響を与える多くのリスクおよび不確定要素、特にブリストルマイヤーズ スクイブの2022年12月31日に終了した事業年度通期報告書 (Form 10-K)、その後の四半期報告書 (Form 10-Q) および当期報告書

(Form 8-K) など、当社が証券取引委員会に提出した報告書にリスク要因として記されている不確定要素と共に評価されるべきです。本プレスリリースに記載された将来予測等に関する記述は、本プレスリリースの発表日時点での予測であり、準拠法で特段の定めのない限り、ブリストルマイヤーズ スクイブは、新たな知見、今後の出来事等に因るか否かを問わず、一切の将来予測等に関する記述について、公に更新または修正する義務を負うものではありません。